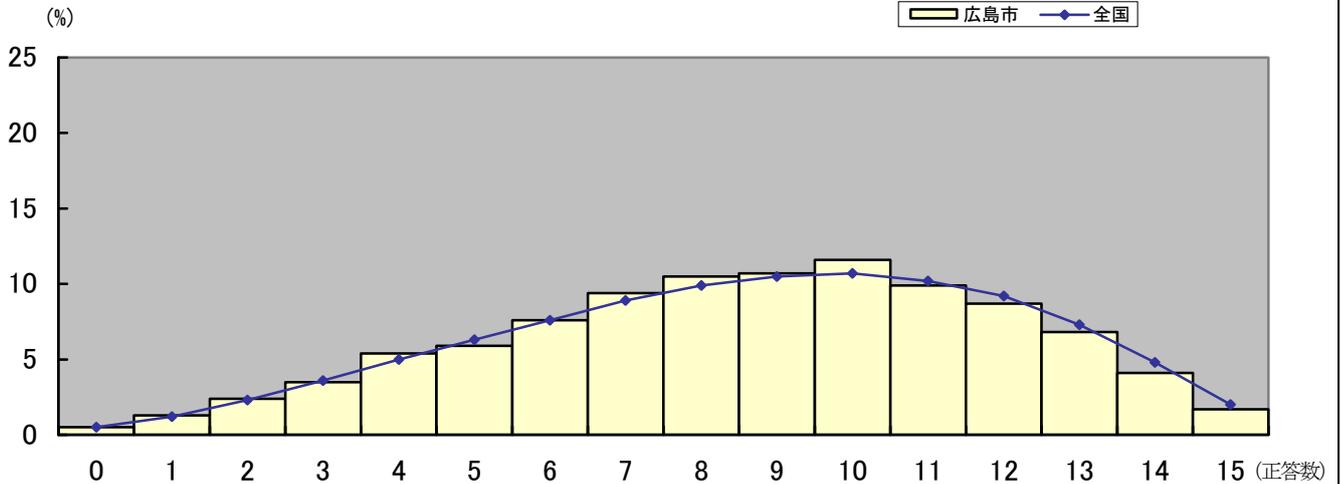


【中学校国語】

国語

【正答数の分布状況】



【学習指導要領の内容ごとの定着状況】

学習指導要領の内容		平均正答率(%)	
		全国	広島市
教科全体		58.1	57
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	59.2	58.7
	情報の扱い方に関する事項	59.6	58.9
	我が国の言語文化に関する事項	75.6	75.7
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	58.8	58.7
	書くこと	65.3	64.7
	読むこと	47.9	46.4

【評価の観点ごとの定着状況】

評価の観点	平均正答率(%)	
	全国	広島市
知識・技能	62.0	61.6
思考・判断・表現	55.4	54.5

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)	
	全国	広島市
選択式	61.0	59.6
短答式	61.8	61.8
記述式	45.5	46.2

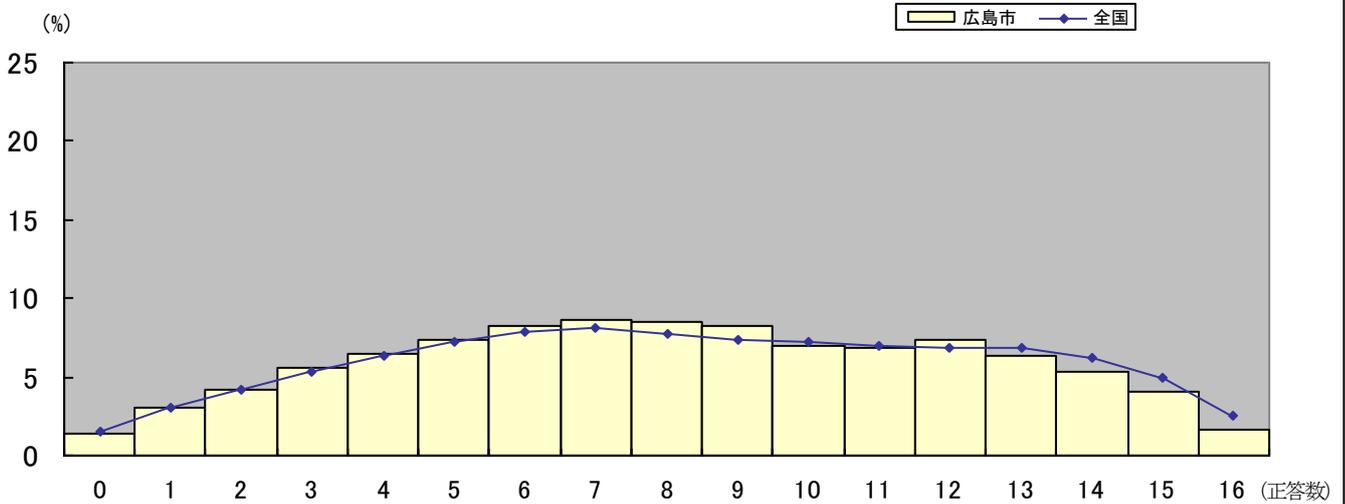
定着状況等

- ◆ 教科全体の平均正答率は、全国平均をやや下回っている。
- ◆ 全国平均と同様に、分布が右よりの山形となっている。
- ◆ 知識及び技能「情報の扱い方に関する事項」については、平均正答率が 58.9%であり、全国平均をやや下回っている。特に、意見と根拠など、情報と情報との関係について理解すること（正答率：43.7%）に課題がある。
- ◆ 思考力、判断力、表現力等「読むこと」については、平均正答率が 46.4%であり、全国平均をやや下回っている。特に、文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること（正答率：33.2%）に課題がある。
- ◆ 思考力、判断力、表現力等「話すこと・聞くこと」については、平均正答率が 58.7%であり、全国平均とほぼ同じであるが、必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることは全国平均と比べ正答率が低く、課題がある。（全国正答率 63.2%、本市正答率：59.5%）
- ◆ 評価の観点では、知識・技能、思考・判断・表現ともに全国平均をやや下回っている。
- ◆ 問題形式別では、記述式は全国平均よりもやや上回っているが、短答式はほぼ同じで、選択式はやや下回っている。

【中学校数学】

数学

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)	
	全国	広島市
教科全体	52.5	<b>51</b>
数と式	51.1	<b>49.0</b>
図形	40.3	<b>39.7</b>
関数	60.7	<b>59.3</b>
データの活用	55.5	<b>54.3</b>

【評価の観点ごとの定着状況】

評価の観点	平均正答率(%)	
	全国	広島市
知識・技能	63.1	<b>61.9</b>
思考・判断・表現	29.3	<b>27.6</b>

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)	
	全国	広島市
選択式	58.5	<b>56.9</b>
短答式	67.0	<b>66.0</b>
記述式	29.3	<b>27.6</b>

定着状況等

- ◆ 教科全体の平均正答率は、全国平均をやや下回っている。
- ◆ 全国平均と同様に、分布がなだらかな山形となっている。
- ◆ 「数と式」については、平均正答率が49.0%であり、連続する二つの偶数を文字を用いた式で表すこと（正答率31.3%）や等式を目的に応じて変形すること（正答率：48.7%）に課題がある。
- ◆ 「図形」については、平均正答率が39.7%であり、事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすこと（正答率25.5%）に課題がある。
- ◆ 「関数」については、平均正答率が59.3%であり、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること（正答率15.2%）に課題がある。
- ◆ 「データの活用」については、平均正答率が54.3%であり、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること（正答率31.3%）に課題がある。
- ◆ 評価の観点では、知識・技能、思考・判断・表現ともに全国平均をやや下回っている。
- ◆ 問題形式別では、全ての問題形式で全国平均をやや下回っている。